

取引先と共同して取り組む環境保全

取引の際に発生している「食品ロス」や「CO₂」などの社会問題に対して、削減を目指して2019年度より新たな取り組みを導入しました。

食品ロス削減に向けた納品期限緩和等の取組み

大きな社会問題となっている「食品ロス」の削減を目的として、商習慣の一つ「1/3ルール」の見直しを実施し、「納品期限緩和」の取り組みをスタートしました。このルールのもとでは、賞味期限まで多くの日数を残すにも関わらず、行き場がなくなり廃棄となる可能性が高まるため、この厳しい納品期限を緩和することは食品ロスの削減につながることを期待されます。

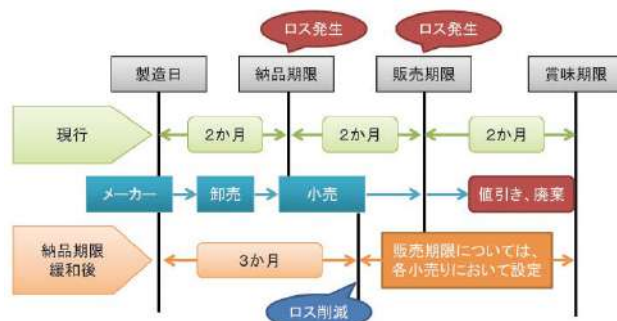
当社におきましても、瓶・缶・ペットボトル飲料及び菓子の納品期限緩和を実施することとなりました。具体的には、賞味期限が180日以上のお菓子に関しては、これまで1/3の期限を切った商品は納品していませんでしたが、2019年10月1日より、期限の1/2までの商品を納品することとし、流通段階での無駄な廃棄の削減に繋げています。あわせて、瓶・缶・ペットボトル飲料に関しても、賞味期限が1/2までの商品を納品します。

今後は、その他の品目についても、店舗や家庭における廃棄等の問題がないと思われる場合は、サプライチェーン全体での食品ロス削減を実現するため、当社においても積極的に緩和に向けた検討を実施し、実現を目指します。地域の食品スーパーは、お客

さまの生活環境を司るインフラでございますので、この機会に納品期限緩和の取り組みを拡大し、食品ロスの削減を進めてまいります。

「1/3ルール」とは

製造日から賞味期限までの合計日数の3分の1を経過した日程までを納品可能な日とし、3分の2を経過した日程までを販売可能な日(販売期限)とする商慣習的なルール



モーダルシフト(輸送手段の転換)の推進

フレスタは2017年度より、環境負荷を低減するためにモーダルシフトに取り組んでいます。また、「ラルズ・シジシージャパン・フレスタ モーダルシフト推進協議会」にも参加し農産物などの輸送について、トラックから鉄道へ転換する輸送計画と実績について協議しています。

今後も輸送品目の拡大と啓蒙活動を行い、更なる活性化と計画達成に向けて活動していきます。

目的

- (1) 物流コスト、二酸化炭素削減の両立を目指し、輸送品目選定、輸送実施効果検証
- (2) 青果物を中心とした品目毎の計画と実績検証、適正輸送方法の共有、蓄積
- (3) 小売・流通が輸送手段を産地と一緒に決定する調達物流、流通経路の簡素化、透明化、品質の向上

輸送品目

- (1) たまねぎ、かぼちゃ、にんじんなどの土物野菜のほかブロッコリー、トマト
- (2) バナナ、キウイ、ぶどうといった輸入果実とみかん、りんご、柿などの国産果実
- (3) 水煮たけのこやミックスマツツといった加工品

実績(JR5トン=12FTコンテナ換算)

- (1) 2017年度 1,137 コンテナ、CO₂削減率59%、削減量218.1トン
- (2) 2018年度 986コンテナ(西日本豪雨で減) CO₂削減率66%、削減量213.7トン
- (3) 2019年度 1,123 コンテナ、CO₂削減率65%、削減量252.6トン



JR 貨物コンテナ



さつま芋の鉄道輸送写真